

人間科学部の教育目標及び各ポリシー

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、人間科学部は1972年の発足以来、従来の文系・理系という枠にとらわれず、つねに新たな学際的領域に視野を広げながら、人間という存在そのもの、及び社会の現実を、行動学・社会学・教育学・共生学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。このことは学部規程の中で「人間と人間の営む社会を科学的に考察し、人間とは何かを見つめ、人間という存在を理解し、人間らしく生きていける社会を作り出すことに貢献できる有能な人材を育成すること」としてきました。

その目的の実現のため、

- 学際性：従来の専門分野の壁を取り払い、複数の学問領域の方法や知識を集合させて教育・研究に取り組むこと。
- 実践性：実験・調査・フィールドワークという、創設以来重視してきた人間科学的〈知〉の技法を洗練化するとともに、〈知〉をアカデミズムのなかに閉じさせることなく、現場に向き合った問題発見・解決型の教育・研究に取り組むこと。
- 国際性：社会及び大学のグローバル化の趨勢に配慮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをみだす〈知〉の創出を目指すこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。

人間科学部の教育目標及び各ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、人間科学部では、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うため、学際性・実践性・国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与します。

- 人間と社会の諸側面について学際的で幅広い知識を身につけている。
- 行動学、社会学、教育学、共生学の基本的な知識を体系的に理解している。
- 現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応えようとする意欲を持っている。
- 実験・調査・フィールドワークなどによって、問題となる課題を発見し、解決する実践的能力を持っている。
- 問題となる課題についての専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得している。
- 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持っている。
- 国際社会の一員として問題解決を図ろうとする旺盛なチャレンジ精神を持っている。

これらの能力は、博識であることや科学的に物事を判断できるということにとどまらず、激動する社会の中で柔軟に対応可能となるよう、自己の日々の成長や研鑽の素地として有効に機能するものと考えています。特に、人間科学英語コースでは、グローバル化する現代社会の中で、国際的に貢献できる素養を有することを求めます。

人間科学部の教育目標及び各ポリシー

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーを受け、人間科学部は、人間についての理解を深め、現代の多様な問題を、総合的・学際的な視点で分析し、科学的な新しい人間観を社会に示し、人間の現実生活をより充実させることをめざしています。このため本学部では、以下のカリキュラムを提供します。

- 全学共通教育科目では、すべての学問領域を横断的に俯瞰できるような教養科目、情報処理科目、健康・スポーツ教育科目を履修します。特に外国語教育科目と統計学、数学の履修の比重を大きくして、その後の専門科目修得の基礎能力を培うようにしています。
- 専門教育科目では、人間を科学的に考察する必修・選択必修科目群を低学年次に配置することで、学生の知的関心を喚起し、研究分野選択の道しるべとしています。
- 高学年次においては学生各自が選択した行動学科目、社会学科目、教育学科目、共生学科目の専門領域を深めつつ、他の学科目さらには他学部科目等の履修を可能にし、多様な研究の視点を学際的に学べるよう、自由選択科目の幅を広く設定しています。
- 本学部のカリキュラムの最大の特徴は、2年生後半から3年生後半までの一年半に毎週3コマ枠を使う実験実習（計6単位）であり、少人数教育の中でより具体的な研究方法を学び、研究テーマを深く追究できるようにしていることです。
- すべての授業が英語によっておこなわれる「人間科学英語コース」があり、人間科学部の学生も英語による多彩な授業に参加できます。

人間科学部の教育目標及び各ポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受け、人間科学部は1972年の発足以来、自然科学的・社会科学的・人文科学的手法をはじめとする、さまざまな手法を縦横に用いて学ぶことによって、人間と社会の全体像をさまざまな側面から総合的に理解することを重視しています。したがって文系・理系のどちらか一方に偏るのではなく、高等学校等でのあらゆる普通教育科目と専門教育科目の学修が、入学後の学びに意義あるものとなります。

- 高等学校等で履修する、国語、数学、外国語、地理歴史・公民、理科の基本的理解度に基づき判定します。
- 学際的な学びや研究を可能にする文理のバランスのとれた学力、並びに国際コミュニケーションの土台となる外国語能力を重視します。
- 主体的に学び、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を積極的に受け入れます。
- 3年次編入では、大学、短大、高専での多様な学問領域を一定程度学修し、それらの成果を発揮しつつ、本学部の求める人間への洞察を可能にするような学生を募集しています。編入試験では、英語、小論文、専門基礎科目、面接が課せられます。
- 人間科学英語コースでは、英語での能動的コミュニケーション能力だけでなく、面接を重視した選抜を行います。グローバル化する現代社会の中で、国際的に将来貢献できる人材を求めます。